

伯利西爾時報

新伯國聯邦憲法邦譯
[十一]

新伯國聯邦憲法邦譯
[十一]

法律テテ定メタル國務大臣自局

ノ行爲及他人ニ命ヲテ爲シタル行

第四章 司法権

ノトス運算二院シテ各大臣ハ

第一款 一般規定

第六十三條 司法權ノ権限ハ左ノ

各省ノ職能ニ對レ責任ナ持テ大臣ハ

第六十九條 共和國大統領ハ國務

的ノ爲ニ下院及上院ニ出席スル

大臣ハ自省職出以外ニ歲入徵收ノ

第六十四條 稽核官ハ監法ノ制限

如シ

ト開保アム犯罪ノ場合ハ特別裁

コト

貴ニ任ズ

第一節 國務大臣ノ督導ノ犯罪

ロ、聯邦列事及軍法會議

ハ、軍事裁判所列事及軍法會議

ノ如シ

生來ノ伯利西爾人ナムコト、運

輸ノ權限ナ有ス

イ、共和國大統領ノ行爲ニ副書

スコト

第二十條 國務大臣ニ任命ノ委任左

お、各所管省ノ監算案ヲ編成ス

科委員会ニ參給ミル

附く際ニいかず、さうかと云つて

表題に丁寧しむる語にもいくま

のである。

化するのだ。思はざるを得ない

ので、何もしくするには當

らないのである。

せではない。詳がに、今がに

かなか田に残けて前途を見つめ

して、軍縮の名のもとに最も經濟

的に、新進の日本を押へつけさせ

るならば、其の時は名譽の孤立

で、東洋平和守護の任に當ればよ

るので、何もしくするには當

らないのである。

せではない。詳がに、今がに

かなか田に残けて前途を見つめ

して、軍縮の名のもとに最も經濟

的に、新進の日本を押へつけさせ

丹那トンネルに凱歌

六十三の支柱を犠牲に

十六年ぶりで完成

自然の威力と人類の偉力との壯烈な闘争によって獲得したものが鐵道史上的金字塔。丹那トンネルは、着工以來十六年目の九月末日全く完成、いよいよ来る十二月一日から營業を開始する運びとなつて去月一日午前七時を期し公式試運轉を開始したことは既報の通りであるが、全長二万五千六百四十五メートル、工費二千五百万圓、工事は思ひがけない大自然の反抗により止まれて設計當初の予定の三倍の年月を数回の増工によつて失つた六十三名の犠牲者を人柱に全世界のエンジニア注視の中に見事世界最難工事な完成した鐵道日本の誇りは大きい、度量が絶頂的な技術的な偉業を成し遂げた。面して計畫放棄の一歩手前まで押し詰められ「死のトンネル」と云ひ慣らされた丹那に、今こそ輿論が廿五尺東洋の壯大な復線トンネル完成の凱歌が上つたのだ。わが國交通上の大転換、東海道線の影響も切った血脈を青春に若返らせる割時代的な音を響かせ、眞一文字に丹那山脈に通ずる電気機関車E.F.五三の鳴れがましまよ! 今茲に同試運轉列車試乗記を綴き諸君と共にアラカルから

「鐵道日本萬歲!」を大叫じやう

X光線で透視した 大蟲の胸體

見よトンネル内の美しさ!

十二分間で通過す

十月一日午前七時根上熱海駅長の

右手がサット舉る、E.F.五三型電氣機関車を先頭に郵便車、荷物車、座席車、舊式木造車十數輛連結の試運轉列車は新手を離れて前方に横ばる丹那山峠に向つて進行を始めた。記者は最前部のプリツケンにて立つて初見の丹那トンネルのインター ビューカーをする。

線路側に群る現業の人々の祝賀の花を散らす、十一杯は一日十一往復の緩行試運轉から

試乗

（の快適事は丹那盆地を

井に五十尺開闊に明るい光の綱模様を織出し強大な爬蟲の胸體は

風は攝氏十度近い、制刃の様に冷たい銃さまで全身硬直させる、アリーチの手柄にしつかり握つて出

口の南口の光を凝視してゐるが針穴は三分四分過ぎても依然針のまゝで却々大きくならない、

五分後に漸く人影が判別出来るや

片々風土記

（五）中巨摩郡三町村での村山製糸會社の紹介

「世界の『スポーツ日本』をして素晴らしい運営を続けてゐる我が運動會の最大の悩みであり、

そのため進歩すべき競技その仲間もその仲間も爲めてゐたことをへてゐる

張を強めてゐたことをへてゐる

は、我が國が立派なムダナツ

（室内體育館）を有してゐない

事に絶対的である

が、實に我が國が立派なムダナツ

（室内體育館）を有してゐない

事に絶対的である

